

41. 入院している幼児期の子どもの甘え

—甘えの表出行動と感情の意味付け—

○山崎麻朱¹⁾ 桑原佐季¹⁾ 原洋平²⁾ 浅井瞳³⁾ 西本麻美⁴⁾ 川島美保⁵⁾

1) 高知大学医学部附属病院 2) 静岡県立こども病院 3) 神戸大学医学部附属病院

4) 広島西医療センター 5) 高知大学医学部看護学科

【はじめに】「甘え」は乳幼児期に多くみられる。乳幼児期の子どもの入院では、家族や慣れ親しんだ環境からの分離、心身的な苦痛や制限等により不安、ストレスが生じ、「甘え」が強くなる。看護師の甘えの捉え方が異なることは、子どもの成長発達に影響すると考えた。入院中の幼児期の子どもの甘えの現れ方とその意味を明らかにし、甘えに対応した看護師の関わりと環境作りについて示唆を得ることを目的とし、本研究を行った。「甘え」は「受け容れられたい、相手との一体感を求めたいという受身的・依存的な愛情欲求であり、子どもが信頼できる相手に全身の感覚器官を使って接近していく行動」と定義した。

【方法】①対象:A 大学医学部附属病院に入院中の2才7ヶ月の幼児1名②研究期間:2006年8月下旬～9月上旬までの9日間③データ収集方法:2名1組で参加観察を行い、1名が対象者と関わりもう1名が観察を行った。午前10時から120～150分間/日で合計観察時間は約22時間30分であった。観察場面は処置、リハビリ、おむつ交換、入浴、散歩、食事、遊んでいる時の7場面であった。④分析方法:逐語録から「甘え」と見られる場面を抽出し、類似性に従ってカテゴリー化を行った。⑤倫理的配慮:病棟師長より紹介された対象者の保護者に本研究の主旨を文書及び口頭で説明し同意を得た。収集した情報の本研究以外への不使用や個人のプライバシー保護について約束した。また、参加観察を行う上では対象者の安全を確保した。

【結果】「甘えの表出行動の種類」と「甘えの感情の意味付け」が抽出された。「甘えの表出行動の種類」は大項目21(擦り寄せる、触る、引き寄せる、しがみつく、寄り掛かる、近寄る、隠れる、見せる、渡す、伸ばす、指を指す、髪を乱す、真似る、遊ぶ、ふざける、離れる、ぐずる、声を出す、笑う、見る、離さない)、中項目33、小項目67に分かれた。「甘えの感情の意味付け」は大項目2(～したい、～してほしい)、中項目16、小項目20に分かれた。「甘えの行動の表出パターン」は、①対象がその場にはいない場合/いる場合、②直接的な行動/間接的な行動、③対象に「～してあげる」甘え/「～してもらおう」甘え、に分類された。

【考察】①幼児期の甘えの表出行動には直接的な行動だけでなく間接的な行動があり、間接的な行動は気付きにくく、幼児の性格、年齢的特徴、感情を考慮することで理解しやすくなる。②甘えの感情は【～したい】と【～してほしい】に分かれ、【～したい】という甘えは自己本位の欲求が強く、【～してほしい】という甘えは他者本位の欲求の方が強い。③幼児期は自己主張型の甘えが出現してくる時期である。

【まとめ】①甘えの表出行動を認識するためには、表出行動に伴う感情を一緒に考える必要がある。②【～したい】という甘えは子ども自身で満たすことができる関わりが必要である。③甘えの表出パターンは成長発達段階が関係していることを認識する必要がある。